

「埋蔵文化財調査センター講演会」と「連続講座」を開催しました。

●講演会「遺跡がつなぐ出雲と広島」



▲2月1日古代出雲歴史博物館にて

島根県埋蔵文化財調査センターが実施している発掘調査の成果等を分かりやすく情報発信する講演会です。26年度は、全線開通を目前にした中国横断自動車道「尾道松江線」建設地内の発掘調査の成果をテーマに開催しました。

●いにしえ倶楽部連続講座



▲1月29日埋文センターにて「発掘された石見焼」

島根県埋蔵文化財調査センターでは、文化財をより身近に感じてもらうことを目的とし、出土品などを活用して文化財講座「いにしえ倶楽部連続講座」を開催しています。26年度は3回開催しました。

刊行案内

●最新刊です！

一般国道9号改築工事に伴う発掘調査報告書を2冊刊行しました。平成25年度に大田市で行った、古墳時代から奈良時代にかけての集落遺跡の成果をまとめたものです。

そのほか島根県庁改修工事に伴う発掘調査報告書も刊行しました。平成25年度に行った、松江城三之丸ほかの調査成果をまとめたものです。

県内の図書館や文化財関係施設等に配布しました。



▲一般国道9号(朝山大田道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3 鈴見8遺跡2区



▲島根県庁改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 松江城三之丸跡・松江城下町遺跡(殿町128)

一度は行ってみたい島根の遺跡

島根県指定史跡 陰地たたら跡 (奥出雲町大谷)

陰地たたら跡(通称:隠地たたら跡)は、1982(昭和57)年の発掘調査でたたらが3基確認され、中世～近世初めにかけてのたたらの変遷を物語る貴重な遺跡として県の史跡に指定されました。2014(平成26)年、奥出雲地域は「奥出雲たたら製鉄及び棚田の文化的景観」として中国地方で初めて重要文化的景観に選定されましたが、陰地たたら跡も構成要素の一つになっています。また、この年に実施された発掘調査で、2、3号炉の地下につくられた施設には安芸地方(広島県南西部)に見られる特徴があり、この地域の製鉄技術が奥出雲地方に伝わった可能性が確認されました。

また、近くには「絲原記念館」があり、有力なたたら経営者であった絲原家に伝承されてきたたたら関係資料や美術工芸品などを展示しています。



▲2014年の発掘調査の様子



▲陰地たたら跡 近景



島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器
まいぶん

No.57

発行:平成27年3月

編集・発行

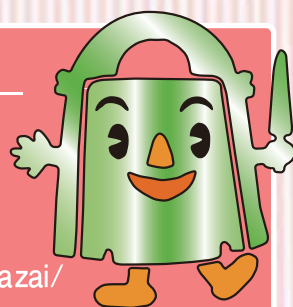
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp

http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/



わかりやすい! 島根県の埋蔵文化財情報が満載!

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ
土器
まいぶん



まいぶんくん

No.57

縄文時代晩期の木棺墓

穴の中に、杉の板材を使って長さ約110cm、幅約50cm、高さ約30cmの木棺を組み、要所に杭を打ち込んで固定しています。



水さらし場遺構

調査区東側の河岸部分で検出しました。湧水点に設置され、自然木を利用した木枠が作られています。木枠内からはトチやクルミの実が多数出土しており、実を水漬けにし、虫殺しや種皮をふやかすための施設と考えられます。

姿を現した縄文時代の暮らし

① 古屋敷遺跡 (大田市仁摩町)

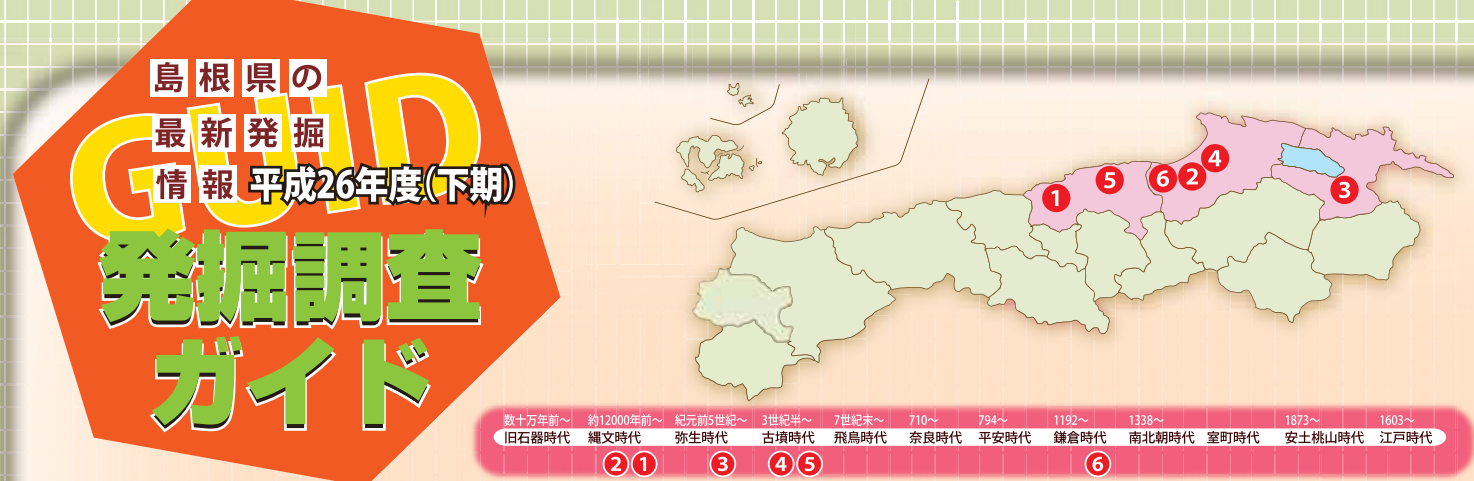
静間仁摩道路の建設に伴い6月から1月にかけて調査しました。遺跡は潮川の下流域に広がる沖積平野に位置し、昨年度調査区に隣接する約4,100㎡の調査区で、縄文時代後期から弥生時代前期初頭の遺構面を計8面確認しました。

このうち、縄文時代晩期の遺構面は少なくとも5面あり、山陰地方初の発見となる「水さらし場遺構」や中国地方で2遺跡目の木棺墓、多数の穴や貯蔵穴、配石などが続々と見つかりました。また、200か所以上の地床炉(火を焚いた痕跡)が検出され、縄文時代晩期を中心に長らく人々が生活していたことがうかがえます。そのほか赤く塗られた彩文土器や漆塗りの櫛、管玉、石製祭祀具など多彩な資料も出土しました。

古屋敷遺跡の発掘調査は平成27年度も継続して行う予定で、さらなる発見が期待されます。

MAP





●発掘調査中の遺跡には、深い穴や急傾斜地など危険な場所があります。事故などのおそれがありますので、くれぐれも無断で立ち入ることがないようお願いします。
■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県教育庁埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

神西湖のほとりの縄文ムラ ②麓Ⅱ遺跡 (出雲市東神西町)

出雲湖陵道路建設に伴い6月から10月にかけて発掘調査を行いました。麓Ⅱ遺跡は神西城の東側の平地に広がる縄文時代から中世にかけての集落遺跡です。今回の調査では古代から中世頃の建物跡のほか、縄文時代後期の土器（約4,000年前頃）が出土しました。
縄文土器の破片が詰まった穴や、石器、獣の骨なども見つかっており、生活の様子をうかがい知ることができますが、住居跡は見つかっていません。調査地点は標高が低いため川の氾濫の影響を受けやすく、縄文ムラの縁辺部にあたると考えられます。ムラの中心部はもう少し標高が高く安定した南側の山裾付近にあると見られます。

MAP



縄文土器



調査の様子



縄文土器出土の様子

新発見！大古墳群の中に四隅突出型墳丘墓 ③東百塚山古墳群 (松江市大草町)

風土記の丘地内遺跡調査として11月から2月まで5基の古墳・墳丘墓の発掘調査を行いました。この古墳群は141基以上の古墳が密集して造られた初期群集墳ですが、多くは5世紀中頃～6世紀前半に造られたものと考えられていました。その中で20号墓だけは地形測量の結果から、「弥生時代後期に造られた四隅突出型墳丘墓ではないか？」と推測されていました。そのため、20号墓の実態を解明するために調査を開始したところ、墳丘斜面の貼石と墳裾には敷石・立石列が見つかり四隅突出型墳丘墓であることが判明しました。地元の土器の他に、吉備系の土器も発見され、岡山県南部地域とも交流があることがわかりました。その他に、丘陵頂部の63～65号墳、71号墳は5世紀後半～末に造られたことがわかり、64号墳の墳裾にはお供えに使用したと思われる須恵器・土師器が集めて置いてありました。県内最大の古墳群は、弥生時代～古墳時代後期にかけて重層的に墓造りが行われた結果であることがわかってきました。



20号墓の敷石・立石列



64号墳裾で出土した須恵器



急斜面で営まれた古墳時代集落 ④九景川遺跡 (出雲市東神西町)

出雲市東神西町にある九景川遺跡は、出雲湖陵道路建設に伴い9月から発掘調査を行いました。今回の調査では古墳時代中期～後期、奈良時代後期～平安時代の集落跡が見つかりました。建物跡の中には鉄製品を研ぐ際に使用する砥石や小規模な鍛冶炉が見ついているものもあります。また、出雲西部では出土例の少ない碧玉製勾玉未製品や結晶片岩製勾玉が出土しました。
九景川遺跡では、平成17年度に行った県道出雲インター線建設に伴う発掘調査で、古墳時代中期から奈良時代の集落跡が確認されています。今回の調査によって当時のムラが谷間から丘陵部まで展開していたことが明らかになりました。



調査区近景



建物跡の調査風景



出土した勾玉

造付カマドのある竪穴住居群を確認 ⑤城ヶ谷遺跡 (大田市久手町)

朝山大田道路建設に伴い、昨年8月から12月にかけて城ヶ谷遺跡の発掘調査を行いました。これまでの調査で、近代の瓦窯が確認されました。窯を築いたり作業場を確保するため、谷の斜面は大規模に造成されましたが、造成がされなかった部分では古墳時代終わり頃の竪穴住居跡を3棟確認することができました。
竪穴住居にはいずれもカマドが造り付けられていました。カマドは骨組み部分を石で作り、粘土を貼って築かれたと考えられ、骨組み材となった石がよく残っていました。造り付けカマドをとまなう住居の発見は、大田市の海岸に近い地域では「市井深田遺跡」に続くものとなりました。



竪穴住居跡



カマドの骨組み材となった石



神西城の西麓に営まれた中世の集落跡 ⑥坂本谷遺跡 (出雲市西神西町)

出雲湖陵道路建設に伴い10月から12月にかけて発掘調査を行いました。神西城の西側の谷裾に位置し、鎌倉時代の建物の柱穴が多数見つかりました。なかには穴の底に土器と砥石が置かれたものもあり、地鎮のためのお祭りに用いたものと考えられます。出土品は素焼きの土器がほとんどで、陶磁器はあまり出土していません。



建物跡



柱穴から見つかった遺物

集落は周辺の水が寄り集まる谷部に営まれており、地滑りの痕跡も見つかるなど、不安定で決して住みやすい環境ではなかったと考えられます。現地調査は終了しましたが、集落の時期や城との関係など、今後整理を進めながら詳細な検討を行う予定です。